



第8回

海草支部

和歌山市支部

那賀支部

伊都支部

有田支部

# 紀州さんぽ散珠つなぎ

新宮支部

串本支部

田辺支部

日高支部

——「本州最南端の町串本を紹介します」——

この写真は私の高校の卒業アルバムにのっている写真です。(昭和34年)

美しい砂浜が串本湾を囲むように古座地方まで伸び、砂の中には紅貝があり波打ちぎわの砂は本当にきれいでした。その後松林の手前から埋め立てられ、住宅、病院、ホテルが建ち、新しい国道42号線が砂浜に並行して作られました。

しかし、この中央に写っているシュロの木は現在も残っています。私は山本周五郎の小説、「もみの木が残った」にダブって感じました。時代はその街の風景を変化させ、人々もその変化とともに生活しています。

しかし、このシュロの木のように変わりなく、高く伸びてゆく姿に感動をおぼえるこの頃です。

串本支部支部長 濱田宗彦



昭和34年頃の橋杭岩



昭和34年頃の串本湾



現在の串本湾



## 地震の時の避難階段

津波対策として串本町が補助金を出して平成15年に完成しました。

平成16年1月に「防災町づくり大賞総務大臣賞」(当時の大臣は現総理大臣 麻生太郎氏)を受賞し、平成16年9月には「防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞、串本町大水崎区長多屋氏が総理官邸(当時の総理大臣 小泉純一郎氏)で表彰されました。

現在避難場所は串本町「さんご台」となっています。